

# 私たちが創るこれからの社会 -新年度の新制度から考える-



## 中東危機から見てきたこと

2月末から始まったアメリカとイスラエルによるイランへの攻撃によりホルムズ海峡は封鎖され、私たちの生活は物価高騰や商品の不足に直結しました。そのうえ、現在に至っても解決するかわかりません。

そして、この中東危機によって私たちは社会課題の解決を先送りしてきた事実を突きつけられました。つまり、石油依存社会を変えられず、しかも、その石油は中東からの輸入にほとんど依存してきたことを何も変えてこなかった不都合な真実です。

その象徴の一つとしてある越谷市議が参加したメーデーの話があります。ジェンダー平等や戦争をなくすなど耳触りのいいことを訴えていても、解決の糸口はなく、壇上には全員が高齢男性、盛り上がりもなく形式的なシャンシャン大会だったそうです。こうした形式的な制度の積み重ねが社会の停滞、先送りになっているのではないのでしょうか？

## 新制度は増えているのになんで生活がよくなるしないの？

そうした停滞感を抱えつつ、今年度も新法の施行、新年度予算が成立し、生活に変化が出ました。そのなかでも目を引くのは「こども誰でも通園制度」です。しかし、結論から言えば、“目先の分かりやすさ、やっている感ありきの対症療法であり、症状の原因からズレている、もしくは原因に目を向けていない”のです。利用施設ごとに子ども同伴の初回面談必須という煩雑さで、かつ利用施設も限られ、その利用施設の受け入れ日時も限られていることもあるという状況です。更に自治体を跨ぐ引っ越しをすると、また審査から必要になります。このシステムだと負荷が大き過ぎて利用できない保護者の存在が無視されます。そのような保護者の子どもこそ、より支援が必要なにもかかわらず、です。他にも自転車への青切符制度導入など多々あります。さらには「武器輸出の拡大」といったものまであります。

こうした目の前の問題ばかりに囚われ、多様な働き方、ライフスタイルに対応できず、さらに「制度として整備されているからよい」となり、思考停止してしまう。

そうではなく、ここで抜けているのは「制度は人を守るが、関係は人を生かす」という視点と「自治」という観点から制度を捉え直すことが重要あると思いませんか？

## 問題に向き合って、みんなで「共通の言葉」をつくる

目の前の新制度の多くは国会での審議もあまりなされずに成立してきたものばかりですから「制度は人を守るが、関係は人を生かす」ことや「自治」が抜けているのです。さらに、先ほど述べたような私たちの社会の不都合な真実と向き合っていません。ここにどう向き合えばよいのでしょうか？

まず、私たちに求められているのは次の時代にふさわしい社会ビジョンをつくり、情報化時代に生きていく自立した主権者になっていくことではないでしょうか？その過程として若者の意識の変化と生活の言葉の翻訳と共有がカギとなると考えています。

時代や社会の変化をつかむためには若者と生きたやり取りをすることから言葉を紡ぎだし、全世代にむけて、社会性のある言葉へと翻訳をし、共有していくことを繰り返していく。そこから「自治」や「関係の分配」へとつなげていき、私たちの求める新制度を自ら創っていくことではないでしょうか？

## 「関係を分配する」って何？-制度だけでもダメ、つながりだけでもダメ

制度は多くの場合、「平均的な人」を前提に設計されるため、個々の事情や背景を十分に反映することが困難です。例えば、発達障害のある方の就労支援や、介護保険制度においても、制度が存在していても実際には利用しにくいという声が多くあります。手続きの複雑さや周囲の理解不足によって、支援が必要な人に届かないケースが少なくないのです。加えて、「武器輸出の拡大」のように新制度そのものが人に害をなすという矛盾まであります。こうした状況において、人と人との「関係」が大きな意味を持ちます。例えば、高齢者の見守り制度が整備されていたとしても、日常的に声をかけ合う近隣住民や、気軽に立ち寄れる場所がなければ、孤立を防ぐことはできません。制度が最低限の安全を支える一方で、関係性は安心や居場所を生み出します。その場が「自分が受け入れられている」と感じられる居場所へと変わっていく。ここに、制度だけでは実現できない価値があります。

新制度の問題は、この制度と関係、そして自治をどのように結びつけるかにあります。制度だけに依存すれば、「守られているが孤立している」状態が生まれかねない。一方で、関係だけに頼れば、属人的で不安定な支えとなり、公平性や継続性が損なわれます。だからこそ、制度と関係は対立するものではなく、自治のもとで相互に補完し合う必要があるのです。

さらに重要なのは、「関係を分配する」という視点です。現代社会では、家族や地域のつながりが弱まり、人との関係を持てる人と持てない人の差が広がっています。この格差を埋めるためには、制度の中に意図的に人間関係が生まれる仕組みを組み込むことが求められます。例えば、支援を受けるだけでなく、地域の中で役割を持ち、誰かと関わる機会を持てるような設計が必要です。

制度は人を守るために不可欠ですが、人が生きていくためには、他者との関係が欠かせません。そして、その関係をどう築いていくかを考え、実践していくのが自治の力です。

新制度の導入にあたっては、その制度が何を守るのかだけでなく、どのような関係を生み出し、私たちの自治をどう支えるのかを問い続けることが重要です。制度と関係、そして自治の三つをつなぐ視点こそが、これからの社会に必要なのではないのでしょうか？

## チームパシュートの挑戦

チームパシュートは、特定の組織や肩書きに縛られない、市民一人ひとりの意思と問題意識から生まれるゆるやかなコミュニティです。

共通しているのは、「社会に対して何かを感じ、考え、行動したい」という思いだけ。それぞれが異なる背景や専門性を持ちながら、ひとつの方向に向かって力を重ねていきます。

今回のチラシから、チームパシュート単独での活動も始めることにしました。つまり、自分たちだけで朝チラシを配ってみようということです。自分たちの声の小ささをしっかり実感して、それでも進んでいけるかどうか。私たちの挑戦がはじまります。

